

足踏み状態が続き、明るい兆しは見えず

11月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

総じて売上は引き続き低迷しており、業界全体の落ち込み、一部では廃業が増す状況も窺える。更に、米大統領選に伴う円安基調やOPECの減産合意等、依然として厳しい環境が中小企業を取り巻いている。

製造業	食料品		菓子は七五三向け商品以外は低調に推移し、売上高並びに収益が悪化している。製麺はコンビニ等におけるカップ麺の売上増加等の影響で乾麺・生麺ともに荷動きが低調となる。酒造は一部品種で人気となり在庫切れが散見される。
	繊維・同製品		桐生織物は婦人服地については梅春物が低調となり、和装織物は販売会・展示会を開催するも成果はいまひとつである。繊維製品は組合全体の受注低迷が続く。レースは技術活用に向け、企業間のネットワーク強化に期待している。
	窯業・土石製品		生コンは県央地域を除いて厳しい状況が続く。コンクリートブロックは戸建住宅の着工件数減少の影響で出荷量は低調となる。コンクリート製品は年度末に向け出荷が開始される中、今後の受注の先細りを懸念している。
	機械・金属		米国大統領選等の影響で円安基調となるも、中小企業は原材料等の値上がりを危惧している。また、富士重工を中心に自動車関連が好調な反面、中国景気の低迷の影響もあり、下請企業からは「利益なき繁忙」との声も聞かれる。
	その他の製造業		木材は原木不足で流通量が減少する中で、依然販売単価上昇を見込めない状況である。紙加工品は原材料価格が軟化傾向であるが、古紙価格の上昇を懸念している。印刷は全体的には売上増加も、各企業とも新規顧客の獲得に苦慮している。
非製造業	卸売業		高崎の食品卸は秋の天候不順の影響で野菜の入手難が続き苦戦している。太田の繊維・衣服卸は雇用人員の増加でユニフォーム類の売上が上昇傾向にある。水産物卸は円安基調で仕入価格が上昇しており、今後の価格転嫁を懸念している。
	小売業		燃料小売は季節外れの降雪で灯油需要が増し売上増となる。一方、OPECの減産合意による原油価格の上昇を危惧している。生花小売は県内大手葬儀社が生花持ち込みを禁止し売上激減。商店街はイベント集客が好調も秋冬需要が弱い状況にある。
	サービス業		温泉旅館は悪天候等により各地で入込客数が減少している。不動産取引は一部地域で大手建設業者によるアパート乱立が進み、今後、賃料の下落や空室の増加を懸念している。建築設計は発注者の期待に沿う成果品の品質確保が課題である。
	建設業		建設工事は一部で下請業者の確保に苦慮する場面が見られる。電気工事は高賃金で仕事量の豊富な都内への転職者が増加し、県内の作業員確保に苦慮している。塗装工事は仕事量が落ち着き、職人の施工単価の上昇傾向が一段落している。
	運輸業		荷動き低調が続く中、労働時間規制による高速道路の利用増や、運転者不足を補う人材育成による経費拡大を憂慮している。また、OPECの減産合意に伴う燃料価格上昇を懸念している。小型運送は医薬品増、什器備品減で昨年並となる。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数（季節調整値） 117.1（前月比+2.8%）「県統計課・10月」
- 住宅着工戸数 1,123戸（前年同月比▲14.0%）「県建築住宅課・10月」

- 求人倍率（季節調整値） 新規2.12倍・有効1.43倍「群馬労働局・10月」
 - 大型小売店販売額 205億円（前年同月比+3.9%）「経済産業省・10月」
 - 消費者物価指数（全国） 100.4（前年同月比+0.1%）「総務省統計局・10月」
- （鉱工業生産指数は22年=100とした指数・消費者物価指数は27年=100とした指数）